

## 第2章 食を取り巻く現状と課題

## 第2章 食を取り巻く現状と課題

地域特性に見合った計画にするためには、市民等を取り巻く食の現状を多角的に調査、研究し、食に関する特徴や課題を把握することが重要です。ここでは、統計データや市民意識調査などにより浮き彫りになった本市独特の食の現状と課題について報告します。

### 1 本市における社会情勢について

#### (1) 人口の推移

- ・人口は年々増加し、高齢化が進んでいる
- ・国や県に比べ、高齢化率は低い

人口については、年々増加していますが、近年、15歳未満、15～64歳において人口が減少しています。

高齢化率は年々上昇していますが、国や県に比べ高齢化率は低くなっています。

表 人口の推移

単位：人

| 項目     | 昭和60年  | 平成2年    | 平成7年    | 平成12年   | 平成17年   |
|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口    | 99,600 | 105,418 | 107,890 | 110,519 | 112,241 |
| 15歳未満  | 22,462 | 20,122  | 17,881  | 16,865  | 15,875  |
| 15～64歳 | 68,438 | 74,456  | 76,307  | 76,268  | 74,879  |
| 65歳以上  | 8,700  | 10,812  | 13,702  | 17,383  | 21,419  |
| 不詳     | 0      | 28      | 0       | 3       | 68      |

資料：国勢調査

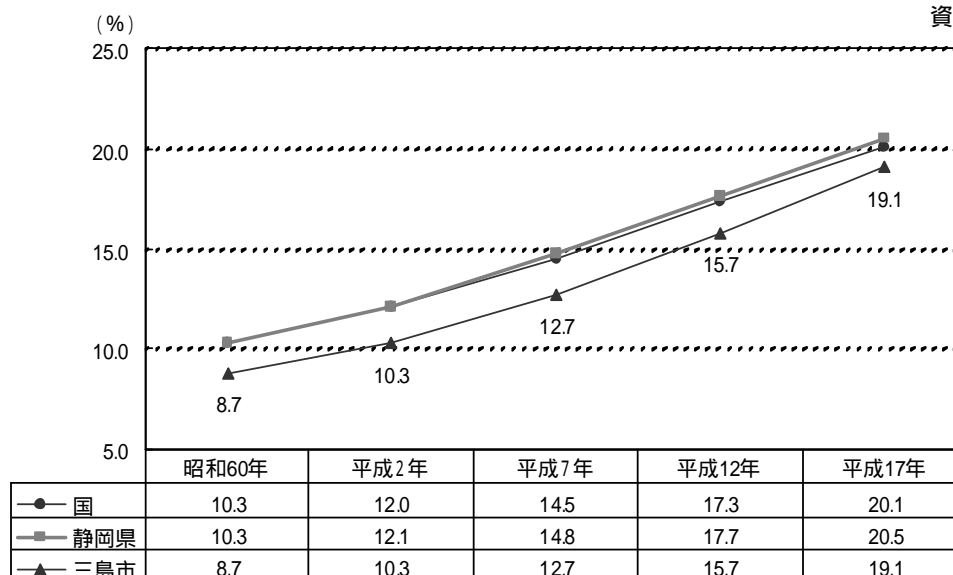


図 高齢化率の推移

高齢化率とは65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合のことです。

## (2) 世帯の推移

- ・世帯数は年々増加している
- ・県に比べ、核家族化が進行している

世帯数については、年々増加し、核家族世帯についても増加しており、特に県に比べ核家族世帯が占める割合が高く、核家族化が進行しています。

表 世帯状況の推移

単位：世帯

| 項目    | 昭和60年  | 平成2年   | 平成7年   | 平成12年  | 平成17年  |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般世帯  | 31,819 | 35,296 | 37,780 | 40,832 | 43,392 |
| 核家族世帯 |        |        |        | 24,120 | 25,298 |

資料：国勢調査

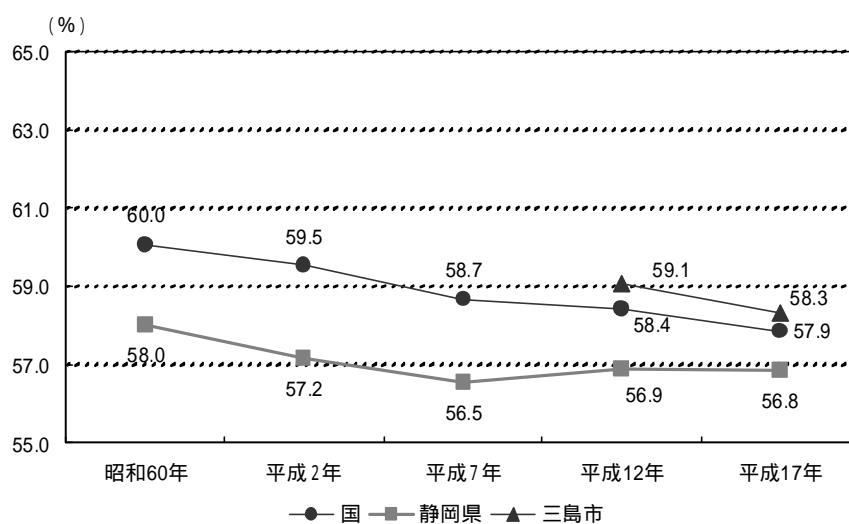


図 一般世帯に対する核家族世帯が占める割合の推移

## 2 食育について

### (1) 食育の認知度

- ・「食育」を知っている人は約9割。意味まで知っている人は約5割
- ・国に比べ、「食育」の認知度は高い

「食育」について知っているかについて、「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味は知らない」を合わせた「食育」を知っている人の割合は86.9%となっています。その内「言葉は知っているが、意味は知らない」が40.8%となっています。

国に比べ、「食育」を知っている人の割合は高くなっています。

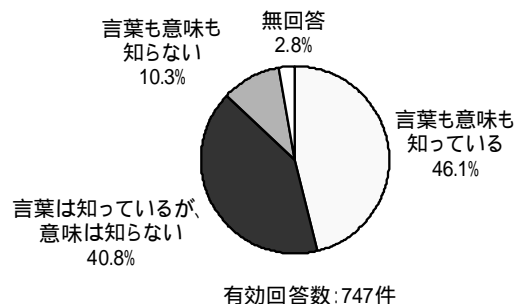


図 食育の認知度

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

#### 【参考】食育の認知度

| 国 | 言葉も意味も知っていた         | 33.9% | 65.2% |
|---|---------------------|-------|-------|
|   | 言葉は知っていたが、意味は知らなかった | 31.3% |       |

国：H19 食育に関する意識調査

### (2) 食育の関心度

- ・「食育」に関心を持っている人の割合は4分の3
- ・国に比べ、「食育」の関心度は高い

食育に関心があるかについて、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた「食育」に関心がある人の割合は75.2%となっています。

国に比べ、「食育」に関心がある人の割合が高くなっています。

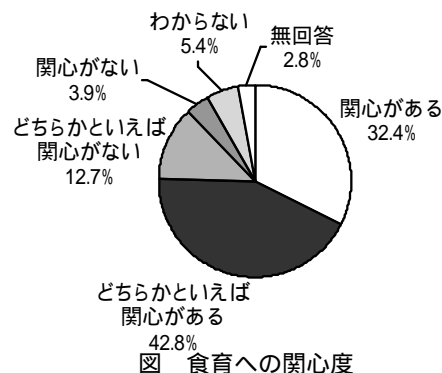


図 食育への関心度

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

#### 【参考】食育の関心度

| 国 | 関心がある         | 36.1% | 69.5% |
|---|---------------|-------|-------|
|   | どちらかといえば関心がある | 33.4% |       |
| 県 | 関心がある         | 43.0% | 75.9% |
|   | どちらかといえば関心がある | 32.9% |       |

国：H19 食育に関する意識調査 県：H18 県政世論調査

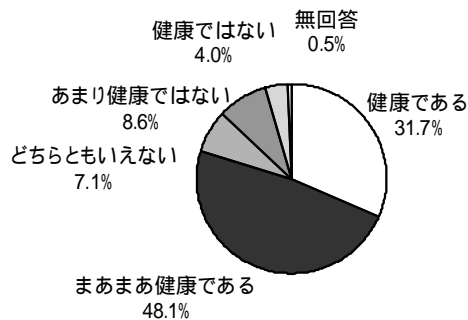
### 3 食生活と健康に関する状況について

#### (1) 健康状態

##### 健康観について

・健康であると思っている人は約8割

自分が健康であると思うかについて、「健康である」と「まあまあ健康である」を合わせた健康である人の割合は79.8%となっています。



有効回答数:747件

図 健康観

#### 【参考】健康観

|   |  |       |
|---|--|-------|
| 県 | 自分の健康状態を「よい」「まあよい」「ふつう」と思っている人の割合(15歳以上) | 83.3% |
|---|--|-------|

県：H15 県民健康基礎調査

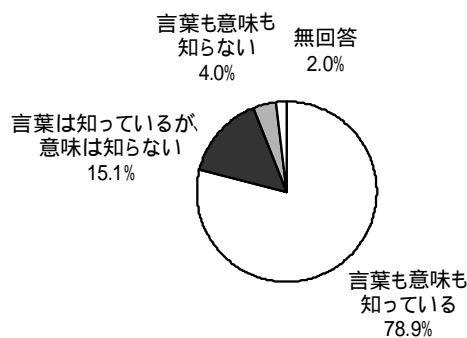
資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

#### メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の認知度

・「メタボリックシンドローム」を知っている人は約9割。意味まで知っている人は約8割  
 ・県に比べ、「メタボリックシンドローム」を知っている人の割合が高い

メタボリックシンドロームについて知っているかについて、「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味は知らない」を合わせたメタボリックシンドロームについて知っている人の割合は93.9%となっています。

県に比べ、メタボリックシンドロームについて言葉も意味も知っている人の割合が高くなっています。



有効回答数:747件

図 メタボリックシンドロームの認知度

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

#### 【参考】メタボリックシンドロームの認知度

|   |                         |       |
|---|-------------------------|-------|
| 国 | 意味まで知っていた               | 77.3% |
|   | 言葉を知っていた                | 91.8% |
| 県 | メタボリックシンドロームを認知している人の割合 | 52.1% |

国：H19 食育に関する意識調査 県：H18 国民健康・栄養調査

メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)とは、内臓に脂肪が蓄積している内臓脂肪型肥満に加え、脂質異常・高血圧・高血糖といった生活習慣病の危険因子を2つ以上持っている状態をいいます。

## 歯や口の健康で困っていること

・ 歯や口の健康で困っていることはない人は約5割

8割の人が健康であると思っていますが、の歯や口の健康で困っていることについて、「固いものがかみにくい」が最も高く16.2%、次いで「歯が痛んだり、しみたりする」が15.9%、「歯磨きすると血が出る」が15.5%となっています。

一方で「困っていることはない」が45.0%となっており、5割以上の人が歯や口の中で困っていることがあります。

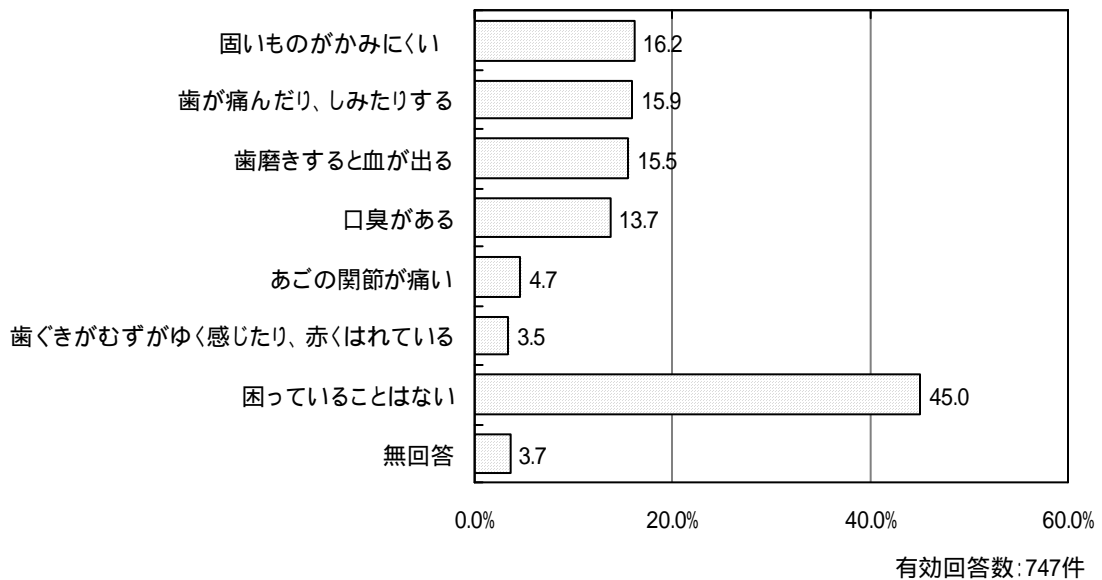


図 歯や口の健康で困っていること

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

(2) バランスのとれた食生活について

バランスのとれた食生活への配慮

- ・バランスのとれた食生活に気をつけている人は約7割
- ・国に比べ、バランスのとれた食生活に気をつけている人の割合が低い

バランスのとれた食生活に気をつけているかについて、「必ずしている」と「だいたいしている」を合わせたバランスのとれた食生活に気をつけている人の割合は 68.8% となっています。

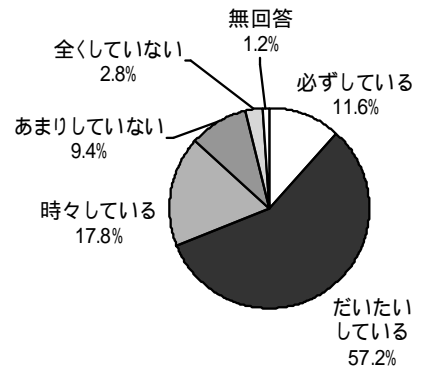
世代別でみると、世代があがるにしたがってバランスのとれた食生活に気をつけている割合が高くなっています。

国に比べ、バランスのとれた食生活に気をつけている人の割合が低くなっています。

【参考】栄養バランスに気をつけている人の割合

|   |                |       |
|---|----------------|-------|
| 国 | 栄養バランスに気をつけている | 87.5% |
|---|----------------|-------|

国：H19 食育に関する意識調査



有効回答数:747件

図 バランスのとれた食生活への配慮

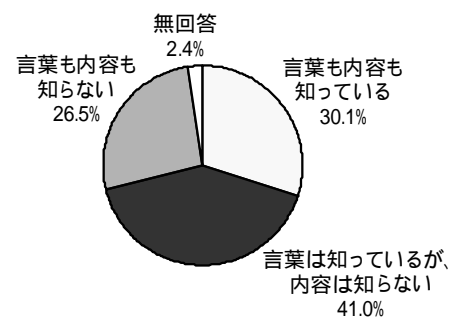
資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

食事バランスガイドの認知度

- ・「食事バランスガイド」を知っている人は約7割。意味まで知っている人は約3割

食事バランスガイドについて知っているかについて、「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが、内容は知らない」を合わせた食事バランスガイドについて知っている人の割合は 71.1% となっています。

「言葉は知っているが、内容は知らない」が 41.0% となっており、食事バランスガイドの普及を図る必要があります。

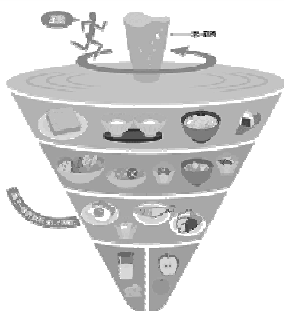


有効回答数:747件

図 食事バランスガイドの認知度

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

食事バランスガイド



「食事バランスガイド」は、健康で豊かな食生活の実現を目的に策定された「食生活指針」(平成 12 年 3 月)を具体的に行動に結びつけるものとして、平成 17 年 6 月に農林水産省と厚生労働省により決定されました。「食事の基本」を身につけるための望ましい食事のとり方やおおよその量をわかりやすく示しています。

## 食事バランスガイド等の活用

・食事バランスガイド等を参考にしている人は約4割

食事バランスガイド等を参考にしているかについて、「いつも参考にしている」と「だいたい参考にしている」、「ときどき参考にしている」を合わせた食事バランスガイド等を参考にしている人の割合は35.1%となっています。

一方で、「あまり参考にしていない」と「特に参考にしていない」を合わせた食事バランスガイド等を参考にしていない人の割合は61.7%となっており、健全な食生活を実践するため、食事バランスガイド等の指針の普及を図る必要があります。

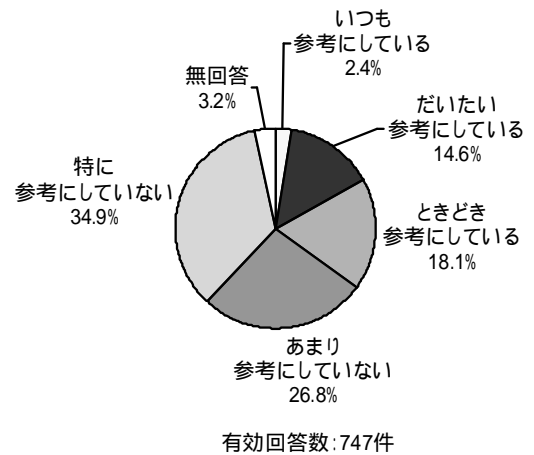


図 食事バランスガイド等の活用

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

【参考】日ごろの健全な食生活を実践するため、食事バランスガイド等を参考にしている人の割合

| 国 | 参考にしているものがある | 割合    |
|---|--------------|-------|
|   |              | 58.8% |

国：H19 食育に関する意識調査



(3) 規則正しい食生活について

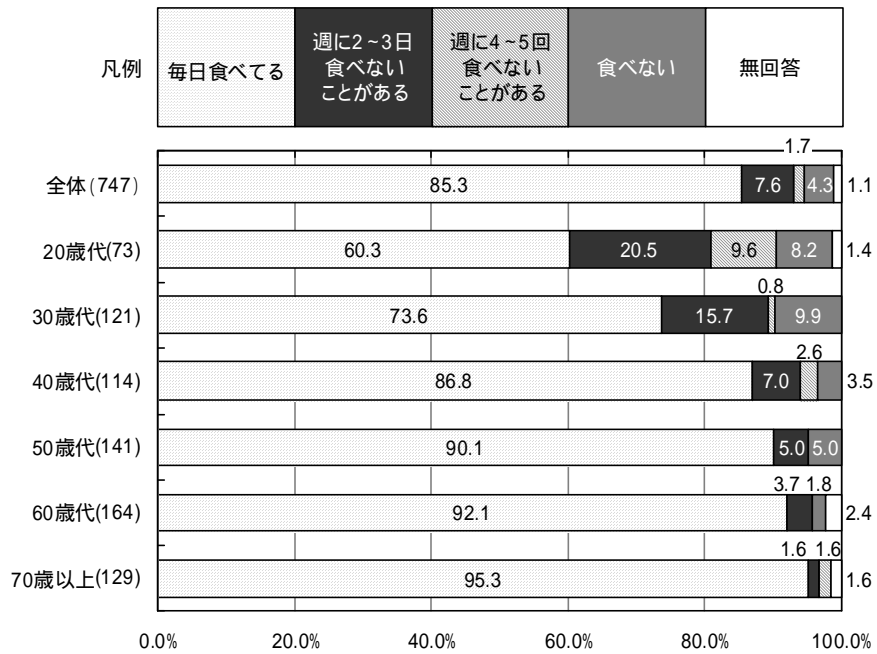
朝食の摂取状況

- ・朝食を毎日食べている人は約9割
- ・20歳代で朝食を毎日食べている人の割合が低く約6割
- ・世代があがるにしたがって朝食を毎日食べる割合が高くなる

朝食を食べる頻度について、「毎日食べる」が最も高く85.3%となっています。

一方で、朝食を欠食している人の割合は1割強となっています。

世代別でみると、特に20歳代において朝食を欠食している割合が高くなっており、青年期から壮年期において規則正しい食生活の実践を促進する必要があります。



( )内は有効回答数

図 朝食の摂食頻度

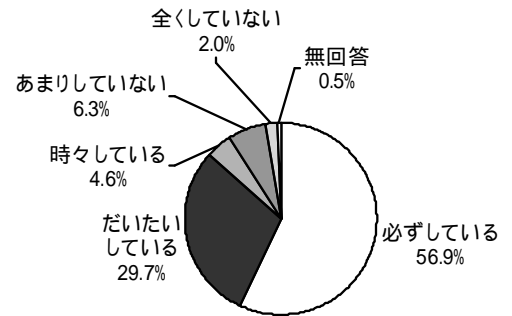
資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

## 規則正しい食生活の実践

- ・規則正しい食生活の実践している人は約9割
- ・20歳代で規則正しい食生活の実践している人の割合が低く約8割
- ・世代があがるにしたがって規則正しい食生活に努めている割合が高くなる

規則正しい食生活に努めているかについて、「必ずしている」と「だいたいしている」、「時々している」を合わせた規則正しい食生活に努めている人の割合は91.2%となっています。

世代別で見ると、世代があがるにしたがって規則正しい食生活に努めている割合が高くなっており、特に20歳代における規則正しい食生活の普及を図る必要があります。



有効回答数: 747件

図 規則正しい食生活の実践

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

## 4 食を通じたコミュニケーション等について

### (1) 食の楽しさの実感について

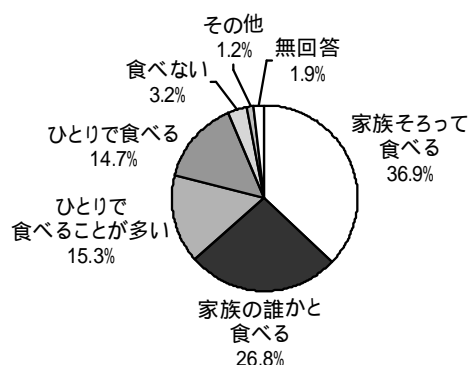
#### 食事の状況

- ・朝食をひとりで食べている人は約3割、夕食をひとりで食べている人は約2割
- ・朝食に比べ、夕食では、ひとりで食べている人は少ない

#### 【朝食】

ふだん家族と朝食を食べているかについて、「家族そろって食べる」が最も高く 36.9%、次いで「家族の誰かと食べる」が 26.8%、「ひとりで食べることが多い」が 15.3%となっています。

「ひとりで食べることが多い」と「ひとりで食べる」を合わせたひとりで食べている人（孤食）の割合は 30.0%となっています。



有効回答数: 747件

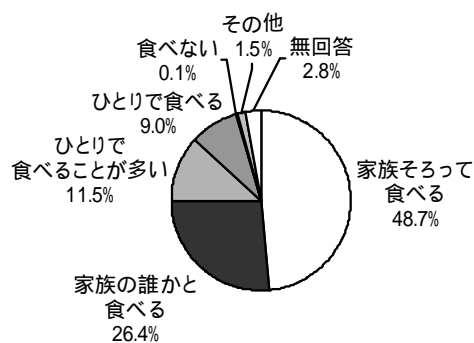
図 食事の状況（朝食）

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

#### 【夕食】

ふだん家族と夕食を食べているかについて、「家族そろって食べる」が最も高く 48.7%、次いで「家族の誰かと食べる」が 26.4%、「ひとりで食べるが多い」が 11.5%となっています。

「ひとりで食べるが多い」と「ひとりで食べる」を合わせたひとりで食べている人（孤食）の割合は 20.5%となっており、朝食に比べひとりで食べている人（孤食）は少なくなっています。



有効回答数: 747件

図 食事の状況（夕食）

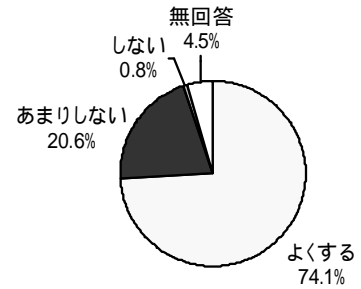
資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

## 食事の時の家族との会話の頻度

- ・食事の時に家族と会話をする割合は約4分の3

食事の時に家族と会話をするかについて、「よくする」が最も高く74.1%となっています。

「あまりしない」と「しない」を合わせた食事の時に家族と会話をしない人の割合は21.4%となっており、家庭におけるコミュニケーションが不足している家庭があることが伺えます。



有効回答数: 602件

図 食事の時の家族との会話の頻度

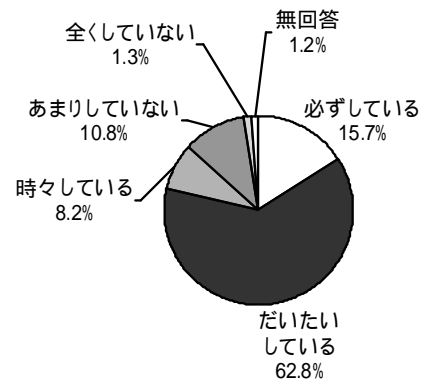
資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

## (2) 食を通じたしつけ等について

### 食事に関するマナーの配慮

- ・食事に関するマナーに気をつけている人は約9割
- ・国に比べ、食事に関するマナーに気をつけている人の割合が高い

食事に関するマナーに気をつけているかについて、「必ずしている」と「だいたいしている」、「時々している」を合わせた食事に関するマナーに気をつけている人の割合は86.7%となっています。



有効回答数: 747件

図 食事に関するマナーの配慮

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

### 【参考】食事に関するマナーに気をつけている人の割合

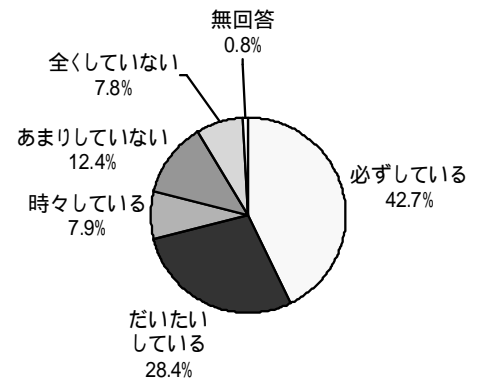
| 国 | 食事に関するマナーに気をつけている | 割合    |
|---|-------------------|-------|
| 国 | 食事に関するマナーに気をつけている | 78.3% |

国：H19 食育に関する意識調査

## 食事の際のあいさつの実践

・食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしている人は約8割

食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしているかについて、「必ずしている」と「だいたいしている」、「時々している」を合わせた食事の際にあいさつをしている人の割合は79.0%となっています。



有効回答数:747件

図 食事の際のあいさつの実践

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

### 【参考】食事の際にあいさつを実践している人の割合

|   |                  |       |
|---|------------------|-------|
| 国 | 食事の際にあいさつを実践している | 78.3% |
|---|------------------|-------|

国：H19 食育に関する意識調査

## 5 食の安全・安心について

### (1) 食の安全・安心に関する意識について

#### 食事や食材を決める要因

- ・食事や食材を決める要因として、安全な食品を選ぶ人は約6割
- ・20歳代において食の安全への関心が低い

食事・食材等の決め方について、「安全な食品を選ぶ」が最も高く59.0%、次いで「好みにあうもの」が58.8%、「栄養のバランス」が53.3%、「値段」が49.1%となっています。近年のBSE（牛海綿状脳症いわゆる狂牛病）や鳥インフルエンザ、食品表示の偽装等の国内外の食の安全に関する事案により、食の安全に対する関心が高まっています。

世代別でみると、20歳代から40歳代において好みや値段を重視していますが、50歳以上では食の安全に対する関心が高くなっています。

表 食事や食材を決める要因（複数回答）

| 単位：％<br>( )内は有効回答数 | の好みにあうもの   | 栄養のバランス | カルシウムや鉄、食物繊維が十分にとれる | 品を使用する<br>品を使用する<br>品を使用する | 安全な食品を選ぶ | 信用のおける販売店で買う | 生産者の分かっているもの |
|--------------------|------------|---------|---------------------|----------------------------|----------|--------------|--------------|
| 全体(747)            | 58.8       | 53.3    | 28.2                | 46.3                       | 59.0     | 30.8         | 23.3         |
| 世代                 | 20歳代(73)   | 65.8    | 39.7                | 9.6                        | 23.3     | 32.9         | 9.6          |
|                    | 30歳代(121)  | 72.7    | 54.5                | 19.8                       | 32.2     | 52.1         | 20.7         |
|                    | 40歳代(114)  | 65.8    | 57.9                | 22.8                       | 39.5     | 52.6         | 28.1         |
|                    | 50歳代(141)  | 55.3    | 57.4                | 27.7                       | 53.9     | 65.2         | 27.0         |
|                    | 60歳代(164)  | 52.4    | 54.3                | 36.0                       | 56.1     | 73.2         | 41.5         |
|                    | 70歳以上(129) | 48.1    | 51.2                | 42.6                       | 58.1     | 62.8         | 45.0         |

| 単位：％<br>( )内は有効回答数 | 調理の手間<br>の少ないもの | 値段   | 選ぶもの | 味・塩分 | 地元のとれるものを使う | その他  | 特になし | 無回答 |
|--------------------|-----------------|------|------|------|-------------|------|------|-----|
| 全体(747)            | 17.4            | 49.1 | 39.8 | 19.3 | 30.4        | 4.3  | 1.7  | 1.1 |
| 世代                 | 20歳代(73)        | 23.3 | 56.2 | 21.9 | 17.8        | 6.8  | 6.8  | 0.0 |
|                    | 30歳代(121)       | 20.7 | 62.8 | 36.4 | 16.5        | 21.5 | 0.8  | 0.0 |
|                    | 40歳代(114)       | 16.7 | 58.8 | 43.0 | 9.6         | 24.6 | 2.6  | 0.9 |
|                    | 50歳代(141)       | 17.0 | 46.8 | 42.6 | 22.0        | 34.8 | 5.0  | 0.7 |
|                    | 60歳代(164)       | 13.4 | 44.5 | 50.0 | 25.6        | 39.0 | 6.1  | 1.2 |
|                    | 70歳以上(129)      | 16.3 | 32.6 | 34.9 | 19.4        | 41.9 | 3.1  | 2.3 |

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

最も高い割合を **90.0**、次いで高い割合を **80.0**、**70.0** で表示しています。

## 食の安全に関する知識度

・食の安全に関する知識を持っている人は約6割

食の安全に関する知識を持っているかについて、「十分に持っていると思う」と「ある程度持っていると思う」を合わせた食の安全に関する知識を持っている人の割合は61.3%となっています。そのうち、「十分に持っていると思う」が6.4%となっており、食品の安全に関する知識の普及を図る必要があります。

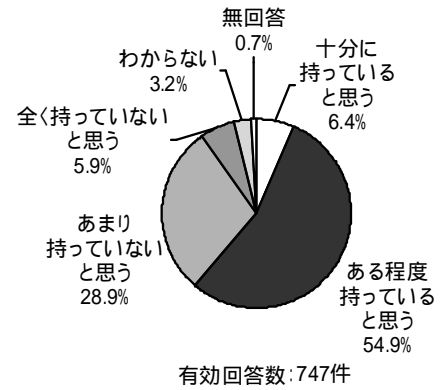


図 食の安全に関する知識度

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

## 6 食文化等について

### (1) 食生活の変化について

・昭和 35 年度に比べ、米の消費量は半減し、畜産物や油脂が大幅に増加

昭和 35 年度と平成 17 年度の食生活を比較すると、米の消費量が半分に減少し、代わりに畜産物が約 4 倍、油脂類が約 3 倍に増加するなど、日本人の食生活が変化しています。

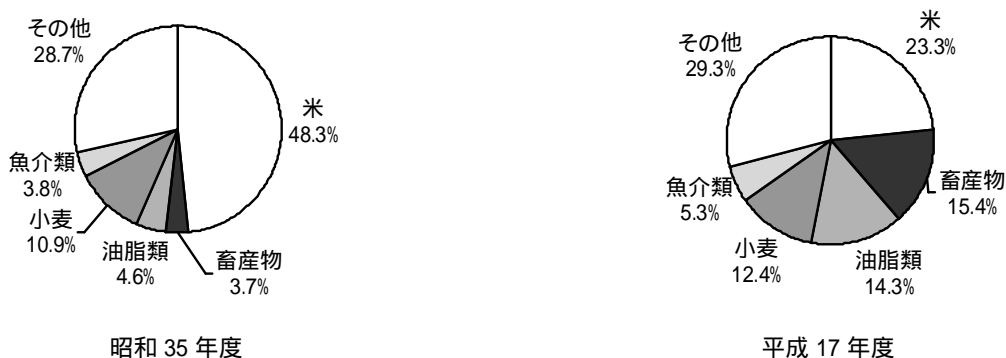


図 食生活の変化の状況 (食事のエネルギーに占める割合)

資料：農林水産省「食料需給表」(16 年度)を基に農林水産省で試算

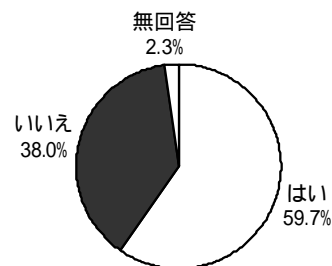
### (2) 地産地消について

#### 地産地消の認知度

・「地産地消」の言葉を知っている人は約 6 割

「地産地消」の言葉を知っているかについて、「はい」が 59.7%、「いいえ」が 38.0%となっています。

「地産地消」とは、「地域生産、地域消費」を短くした言葉で「地域でとれた生産物を地域で消費する」という意味で使われています。



有効回答数: 747件

図 地産地消の認知度

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査



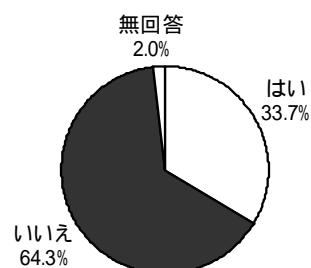
## 旬産旬消の認知度

・「旬産旬消」の言葉を知っている人は約3割

「旬産旬消」の言葉を知っているかについて、「はい」が33.7%、「いいえ」が64.3%、となっています。

「地産地消」に比べ「旬産旬消」の認知度は低くなっています。

「旬産旬消」とは、「旬の生産物を旬の時期に食べる」という意味で使われ、旬のものをその季節に消費することは、生産や保存などにかかるエネルギーの無駄使いにならず、栄養価も高く、おいしい食べ方であると言われています。



有効回答数:747件

図 旬産旬消の認知度

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

## 学校給食でを使用した地場産物例

・ジャガイモ ・ニンジン ・ダイコン ・コマツナ ・ホウレンソウ  
 ・キャベツ ・レタス ・ハクサイ ・ネギ ・米 など

学校給食でを使用した地場産物使用割合（食材数ベース）は、32.4%となっており、年度は異なるものの、国や県に比べ高い割合となっています。

表 学校給食でを使用した地場産物使用割合（食材数ベース）

| 項目 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|----|--------|--------|--------|
| 市  | -      | -      | 32.4%  |
| 国  | 20.9%  | 21.7%  | -      |
| 県  | 21.2%  | 23.7%  | -      |

資料：文部科学省及び庁内資料

### 主要生産物別の収穫量

- ・主要生産物の収穫量は、「ダイコン」、「ハクサイ」、「キャベツ」が多い

主要生産物の収穫量は、「ダイコン」が最も多く2,470トン、次いで「ハクサイ」が2,260トン、「キャベツ」が2,040トンとなっています。

表 主要生産物別の収穫量

単位：トン

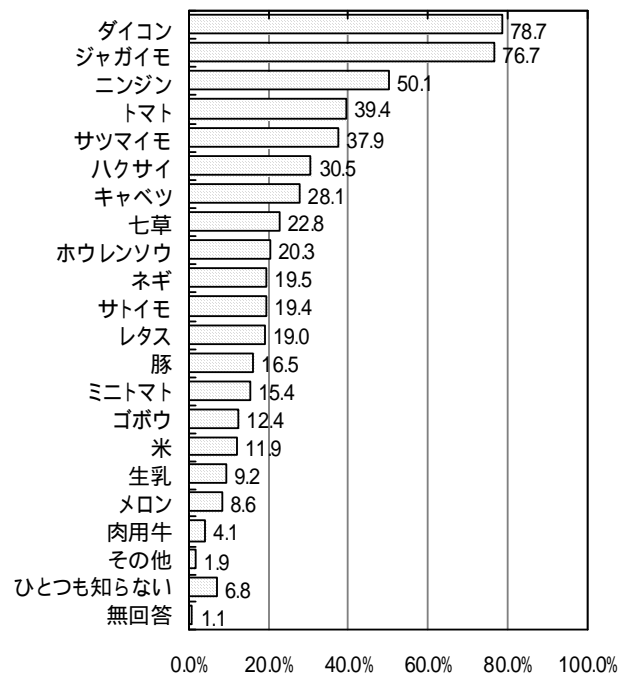
| 作物名   | 収穫量   | 出荷量   | 作物名    | 収穫量 | 出荷量 |
|-------|-------|-------|--------|-----|-----|
| ダイコン  | 2,470 | 2,230 | レタス    | 949 | 900 |
| ハクサイ  | 2,260 | 2,030 | ホウレンソウ | 716 | 648 |
| キャベツ  | 2,040 | 1,970 | ネギ     | 453 | 411 |
| トマト   | 1,050 | 987   | ナス     | 320 | 254 |
| パレイシヨ | 980   | 805   | サトイモ   | 312 | 249 |

収穫量が多い10作物を掲載。ただし、出荷量がないものは除く 資料：17年～18年静岡農林水産統計年報

### 三島市の主要な農畜産物の認知度

- ・主要な農畜産物として、「ダイコン」、「ジャガイモ」の認知度が高い
- ・収穫量が多い「ハクサイ」、「キャベツ」の認知度は低い

三島市の主要な農畜産物で知っているものについて、「ダイコン」が最も高く78.7%、次いで「ジャガイモ」が76.7%、「ニンジン」が50.1%となっています。



有効回答数：747件

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

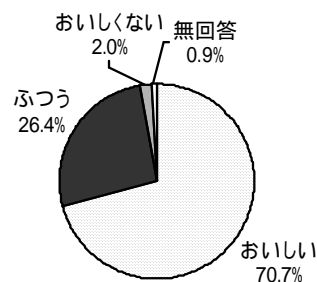
## 7 食と環境について

### (1) 三島市の水について

・三島市の水はおいしいと思う人が約7割

#### 三島の水への評価

三島市の水はおいしいと思うかについて、「おいしい」が最も高く70.7%となっており、次いで「ふつう」が26.4%、「おいしくない」が2.0%となっており、約7割が三島市の水をおいしいと感じています。



有効回答数:747件

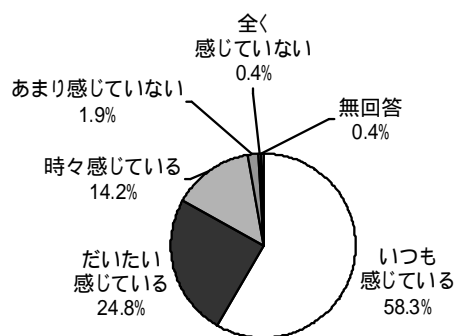
図 三島の水への評価

### (2) 食べ残しや食品の廃棄について

・ほとんどの人が食品産業や家庭における食べ残しや食品廃棄をもったいないと思う

#### 食べ残しについて

食品産業や家庭における食べ残しや食品廃棄をもったいないと感じるかについて、「いつも感じている」と「だいたい感じている」、「時々感じている」と「あまり感じていない」を合わせた食べ残しや食品廃棄をもったいないと感じる人の割合は97.4%となっています。



有効回答数:747件

図 食べ残しをもったいないと感じる度合い

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査

## 食べ残しを減らす努力

・食べ残しを減らす努力をしたり作りすぎに注意している人は約9割

食べ残しを減らす努力をしたり作りすぎに注意しているかについて、「必ずしている」と「だいたいしている」、「時々している」を合わせた食べ残しを減らす努力や作りすぎに注意している人の割合は90.9%となっています。

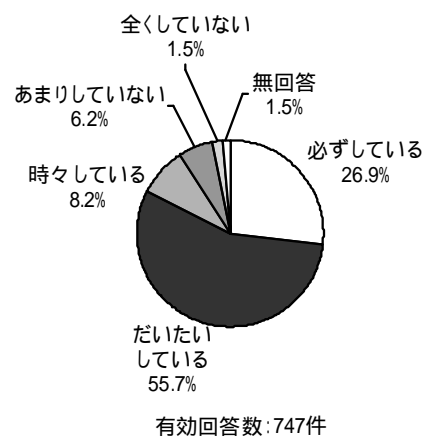


図 食べ残しを減らす努力

資料：食育基本計画策定のためのアンケート調査